

官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM) 審査・評価委員会
国立大学イノベーション創出環境強化事業分科会 概要

【令和3年度第1回分科会】

1. 日 時：令和3年8月6日（金）9：00～19：00
2. 場 所：オンライン（事務局会場：内閣府 中央合同庁舎第8号館6F 623会議室）
3. 議 事：
 - （1）審査・評価委員会と座長について
 - （2）採択から2年目のフォローアップに関する審査の進め方について
 - （3）採択から2年目各大学からのヒアリング
 - （4）採択から2年目のフォローアップ 審査結果について
 - （5）採択から3年目のアワードに関する審査の進め方について
 - （6）採択から3年目のアワード申請大学からのヒアリング
 - （7）採択から3年目のアワード 審査結果について
 - （8）採択から3年目のフォローアップ（アワード非申請大学）に関する審査の進め方について
 - （9）その他

4. 分科会委員 ※◎は座長（五十音順・敬称略）
 - 五十嵐 仁一（ENEOS 総研株式会社代表取締役社長）
 - ◎上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）
 - 岸本 康夫（JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監）
 - 本山 和夫（学校法人東京理科大学会長）
 - 渡辺 裕司（元株式会社小松製作所執行役員経営企画室副室長）

5. 評価方法 及び 配分案の決定方法

<採択から2年目のフォローアップ>
(省略)

<採択から3年目のアワード（追加交付金）>

委員は、フォローアップ調書、ヒアリング内容、及び、事務局が提示する基礎データ(i), (ii)に基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示すとともに、審査観点(1)～(4)のそれぞれに関し、評定「A」（優れている）、「B」（良好である）、「C」（やや不十分である）、「D」（不十分である）のいずれかを付与する。

基礎データ

(i) 民間資金獲得額増加の実績：

令和2年度の平成30年度に対する伸び率【調書の記述に基づき事務局が集計】

(ii) 共同研究の直接経費に対する間接経費の割合の実績：

令和2年度の実績値及びその平成30年度に対する伸び【財務諸表に基づき事務局が集計】

・審査観点は以下のとおりとする。

(1) 民間資金獲得額増加のための取組の実施状況：

- これまでの延長線上での取組ではなく他大学を先導するような先端的な取組を実施できたか。
- 取組の結果として、採択から2年間にわたって継続的に民間資金獲得金額を増加させることができたか。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により民間資金獲得金額が伸び悩む状況に際して、新たな方策を採用し、状況を改善できたか。

(2) 令和3年度以降の民間資金獲得額増加に向けた計画の具体性、実現可能性：

- 民間資金獲得のための取組は具体的か。
- その取組は実現性があり、大学の財政基盤強化に資する民間資金の獲得が期待されるものか。
- 採択された令和元年度以後の大学の収支全体や民間資金獲得状況の変化を踏まえ、既存の取組の拡充や新たな取組の追加により、民間資金獲得金額を令和2年度実績からさらに上積みすることが期待できる計画であるか。

(3) 交付金の活用状況：

- イノベーション創出環境強化や大学の経営基盤強化に資する取組のために交付金を活用できたか。
- 一過性のものでなく、エコシステムを確立し、持続可能なイノベーション創出環境を実現するために活用できたか。

(4) 本事業の効果：

- アワードに当該大学が採択されることで、他大学の模範となる等、政策的な効果が期待されるか。

・委員の協議により、ガバナリングボードに提示する配分先・配分額案を決定する。

【令和3年度第2回分科会】

1. 日時：令和3年8月25日（水） 書面による開催

2. 議事：

（1）採択から3年目のフォローアップ（アワード非申請大学）についての書面による審査

3. 分科会委員

令和3年度第1回と同じ。

4. 評価方法

・委員は、フォローアップ調書、及び、事務局が提示する基礎データに基づき、優れた点や改善を要する点などについて、所見を示す。基礎データは、アワード申請大学についてのデータと同種。